

<p>1 目指す学校像</p>	<p>○専門技術の深化を図るとともに、地域・社会に貢献できる人材を育成する学校 ○ものづくり教育の設備・実習拠点校として、地域社会へ教育機能を還元する学校。</p>		
<p>2 中期的目標と方策</p>	<p>1 地域社会で即戦力となる人材育成とテクノロジー教育の推進 (1)生徒の職業人としての「生きる力」を育み、工業技術者にふさわしいバランスの取れた人格の完成とともに、グローバルに活躍できる人材を育成するため海外学校間交流推進校として調査・準備を進め、海外スタディツアー実施を目指す。 (2)「企業から求められる人材育成」「地域社会の力になれる人材育成」の視点から、教育課程と施設・設備の関係について検討を行い、必要な改善・改修を行うことで、企業及び地域住民や保護者から支持される学校づくりを目指す。</p> <p>2 ものづくり教育と資格取得の推進 (1) 実習と課題研究を連動させ、設計・製作・評価・改善のプロセスを重視した授業改善を進める。あわせて地域企業等と連携し、実社会につながる課題でものづくり教育を展開する。 (2) 資格取得を学びの成果として位置付け、教育課程に計画的に組み込むとともに、放課後・長期休業中の補習を充実させる。電気工事士等の国家資格や各種検定では目標（ジュニアマイスター顕彰等）を明確にし、全校で取得を支援する。</p> <p>3 環境教育の推進 (1)環境化学科を中心に、教材開発、実験実習受入、成果発信を行う環境教育センター的役割を明確化する。</p>		
<p>3 今年度の取組目標と方策</p>	<p>(1) 学校経営 ①業務効率化を前提に、企画・運営は主担当分掌が担い、全教職員は役割分担して参画する。各分掌でOJTを推進する。 ②会議等を計画的に運営して業務を効率化し、在校時間を縮減する。週1回以上の定時退庁日を設け、ライフワークバランスを推進する。 ③説明会・見学会やSNSの発信やHPを充実させ、全教職員で学校PRと生徒募集に取り組む。中学校教員向け説明会・中学校訪問を強化し、生徒授業評価等の学校評価を活用する。</p>	<p>(2) 学習指導 ①学力に応じて一人一台端末を活用し、工業の知識・技能の指導法や授業内容を改善して「わかる授業」を推進する。 ②個性・能力に応じた授業改善を進め、音読や課題研究発表等を通してコミュニケーション力・プレゼン力を高める。 ③実習設備・ICTを効果的に活用し、少人数指導や協働学習、アクティブラーニング等を取り入れた実践的な授業を行う。 ④電気工事士等の資格取得を推進し、ジュニアマイスター上位を目指す生徒を育成する。 ⑤教育課程委員会等で教科・科目や行事を見直し、授業時数の確保と授業規律（チャイム即開始・終了）を徹底する。</p>	<p>(3) 進路指導 ①全校で進路指導を推進し、資料を活用して専門学科の学びを基に挑戦を促す指導を行う。 ②デュアルシステムを通じて産業界との連携を強化し、企業ニーズに即した実践的スキルを備えた人材を育成する。 ③キャリア教育の視点で計画的に指導し、進路希望実現100%を目指す。進路指導部を中心に3年間を見通した段階的な計画を策定し、勤労観・職業観の育成、産業界との連携、健康づくりとボランティア精神の涵養を推進する。</p>
<p>(2) 重点目標と方策</p>	<p>①都立工科高校のモデル校としての役割を担う学校を目指す ・一人一人が「分かる・できる」を実感できる授業で学習満足度を高め、学校生活への肯定感を育む。 ・ICTを活用した効果的な指導により、基礎学力の定着・伸長を図る。 ・実習・資格指導を充実させ、技能・技術を高めるとともに、工科の特色ある部活動を推進する。 ・2学年全員でインターンシップを実施し成果を検証する。併せて協力企業を開拓し、連携・情報共有を強化する。 ・「生活指導統一基準」に基づき規範意識を育て、社会貢献の心と人権尊重の精神を養う。 ・奉仕体験や生徒会・部活動を通してボランティア精神を育み、体験活動を充実させる。 ・設備実習拠点校として、近隣工業系専門高校の生徒にもものづくり教育の授業・実験実習を実施する。</p> <p>②環境教育に環境化学科を中心に取組む ・環境教育について環境課題や環境活動などの情報を地域に発信するとともに環境啓発活動を推進し、外部発表会等に参加する。</p>		

○資格取得等を推進するセンター的役割および、デュアルシステム科を有する工科高校として企業連携のモデル校を担う。

3 教職員の人材育成と研究・研修の充実及びサービスの厳正

- (1) 教職員育成と授業改善：個々に応じた計画的な人材育成を行い、授業見学・研究授業や生徒授業評価を活用して、指導・評価方法を共有し、PDCAで組織的に改善する。
- (2) デジタル化の推進：TOKYOスマート・スクール・プロジェクト等を通じ、ICT活用やアクティブラーニングの視点で（特に工業科の実習・演習を）改善する。
- (3) 服務・情報管理の徹底：服務事故防止体制と自己管理を徹底し、情報セキュリティの観点から校内情報の管理を強化する。
- (4) 支援体制と安全：特別支援を含む教育相談機能を充実させ、SC等を中心にいじめ防止・自殺予防の体制を整え、安全・健康研修や外部連携、防災・安全教育を進める。教員一人一人の能力や特性に応じて、意識的・計画的・継続的に人材育成を推進する。

4 ライフ・ワークバランスの推進

- (1) 仕事と子育てや親の介護、地域活動、自己啓発等の仕事以外の生活の調和を目指す。
- (2) これまでの働き方を見直し、より充実した生活を送るとともに、学校として教数職員の力を十分に引き出すことで学校全体に活力をもたせる。

(4) 生活指導

- ①教職員全体で生活指導方針の共通理解を図る。
- ②ルールやマナー、身だしなみ、などの規範意識の指導と基本的な生活習慣の確立を、様々な教育活動を通して徹底する。
- ③あいさつの励行（挨拶100%）、校内美化、時間厳守等を重点目標とする。
- ④SCの有効活用を通して家庭とのきめ細かい対応を行うことで、いじめ防止に係る相談活動を充実させる。
- ⑤命の大切さを実感させ、SOSの出し方に関する教育を推進することにより、自殺対策に資する教育の推進を図る。
- ⑥生徒理解と特別支援教育への理解を深め、生徒や保護者が相談しやすい体制づくりに努める。
- ⑦校内研修会等を実施し、継続して体罰の根絶・いじめ防止に向けた取り組みを推進する。
- ⑧体力テストの結果を分析し、効果的な体力向上の手だてを検討し、実施する。

(5) 特別活動と環境教育

- ①生徒が主体的に取り組む「学校行事」、「生徒会活動」等を通じ、生徒の自主・自律の向上を図る。
- ②関東大会出場を目指せるように運動部の活動をさらに推進し、工科高校の特色を活かした文化部活動にも力を入れる。
- ③環境教育活動の継続、省エネについて取り組む。
- ④各教科による環境保全教材の開発や課題研究等による研究活動を充実する。
- ⑤ふっさ環境フェスティバル等、外部発表会へ積極的に参加する。
- ⑥環境教育を積極的に実施している工科高校として、活動の意義を共通認識し、組織の編成、運営方法について検討改善を行う。

(6) 広報活動と地域連携

- ①情報の即時発信のため SNS を適時の更新・充実を行う。
- ②地域社会との交流・連携、ボランティア活動を推進し、地域に根ざした学校経営を実践する。
- ③防災教育・安全教育、人権教育、薬物乱用防止や交通安全等の講演会を実施し、人命の大切さや身の安全など、人命尊重や事故防止の徹底に努める。また、学校周辺の防災林づくりを継続し、地域密着型の学校として防災活動の地域連携を積極的に推進する。
- ④小・中学校との連携事業、公開講座や学校開放事業による施設・設備の有効利用を目指すなど、地域貢献に努め地域から頼られ支えられる学校を目指す。
- ⑤部活動紹介動画を製作し、動画投稿を実施する。

③募集活動の強化

- ・ SNS 等を活用し、本校の取組を積極的に発信する。
- ・ 小・中学校等との連携を強化し、ものづくり人材の育成・発掘を進める。
- ・ 地域の製造業等と連携し、教育活動の充実を図る。
- ・ 福生市・福生市教育委員会等と連携し、地域活性化に貢献する。
- ・ 全教職員で学校 PR と募集活動を推進し、中学校訪問・説明会／見学会（各4回以上）・体験入部／体験実習、HP・パンフレットの充実を行う。
- ・ 部活動とものづくり教育を充実させ、「中学生に選ばれる多摩工科」のイメージを定着させる。

【数値目標】

- ①学習指導：授業・学校生活に関するアンケート「満足している」「概ね満足している」と回答する生徒の割合 80%以上、検定・国家資格等資格取得数（ジュニアマイスター顕彰表彰者数含む）50名、中退者数 7名以下
- ②生活指導：教育相談に関する会議 毎月開催、スクールカウンセラー相談数 200件、3年間皆勤・精勤 30%
- ③進路指導：進路確定率・就職内定率・インターンシップ参加率は、100%を目指す。
- ④特別活動：部活動加入率 90%、ボランティア活動参加数 200名
- ⑤募集・広報活動：中学校訪問数 50校以上、一般入試の応募倍率 1.20倍、推薦入試の応募倍率 1.70倍、学校説明会等の参加人数 600名